教科（ 芸 術 ） 科目（ 書 道 Ⅰ ） 単位数（ 2 ）
類型（ 共通 ・ 文 ・ 理 ） 履修規定（ 必修 ・ 選択 ）

| 年間目標 | 教科書・副教材等 |
|---|---|
| 1 書道の幅広い学習を通して、書を愛好する心情を育て、書道の伝統と文化についての理解を深める。<br>2 感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすとともに、創作力を育む。 | 教科書「書道Ⅰ」東京書籍 |

| 期 | 月 | 学習内容（予定時数） | 学習目標（短期目標） | 学習のポイント・観点別評価 |
|---|---|---|---|---|
| 1学期 | 4 | 書写から書道へ （2） | ・小・中学校の国語科書写と高等学校芸術科書道との関係について理解する。<br>・書道の用具・用材、執筆法、落款について理解する。 | ・書写能力を高め、幅広い書の活動を通して多様な書の美しさを学ぶことが理解できたか。【関心・意欲・態度】<br>・用具・用材、執筆法、落款が書作品の中で果たす役割を理解できたか。【関心・意欲】 |
| | | 漢字の書<br>1漢字の書を学ぶ （2） | ・古典のもつ伝統的な美を感受し、臨書の意味や表現方法を理解する。 | ・漢字の書体の変遷を通して書の伝統と文化が理解できたか。【関心】<br>・臨書の意味や方法が理解できたか。【関心】 |
| | 5<br>6<br>7 | 2楷書 (20)<br>・「九成宮醴泉銘」<br>・「孔子廟堂碑」<br>・「雁塔聖教序」<br>・「自書告身」<br>・「牛橛造像記」<br>・「鄭羲下碑」 | ・唐の四大家を中心とした書風の変遷と特性を学び、技法を体得する。<br>・それぞれの法碑帖の構築的な構造や変化と統一、用筆や運筆などを理解し、字形構成や全体構成を工夫する。 | ・楷書のさまざまな書風が理解できたか。【関心】<br>・楷書の古典を鑑賞する意義について理解できたか。【鑑賞の能力】<br>・楷書の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしたか。【創造的な技能】 |
| 夏休み | | | | |
| 2学期 | 8<br>9<br>10 | 3行書 (12)<br>・「蘭亭序」<br>・「争坐位文稿」<br>・「風信帖」 | ・中国や日本の行書の古典の美を学び、それぞれの法帖の流動的な構造や変化と統一、用筆や運筆などを理解し、字形構成や全体構成を工夫する。<br>・教材に真跡と拓本があることに注意しながら、行書の古典を鑑賞する意義について理解する。 | ・行書の伝統と文化について理解できたか。【関心】<br>・行書のさまざまな書風が理解できたか。【関心】<br>・行書の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしたか。【創造的な技能】<br>・行書の古典を鑑賞する意義について理解できたか。【鑑賞の能力】 |
| | | 4草書<br>・「真草千字文」 （4） | ・草書の成立と伝統について関心を持ち、意欲的に草書の美を味わう。<br>・草書の流動的な構造や変化と統一、用筆や運筆などを理解し、字形構成や全体構成を工夫する。 | ・草書の成立と伝統について理解できたか。【関心】<br>・草書の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしたか。【創造的な技能】<br>・草書の古典を鑑賞する意義について理解できたか。【鑑賞の能力】 |
| | | 5隷書<br>・「曹全碑」 （2） | ・隷書の成立と伝統について関心を持ち、主体的に隷書の美を味わう。<br>・隷書の構築的な構造、用筆や運筆などを理解し、字形構成や全体構成を工夫する。 | ・隷書の成立と伝統について理解できたか。【関心】<br>・隷書の美と技法に関心を持ち、表現技法を高めることができたか。【創造的な技能】<br>・隷書の古典を鑑賞する意義について理解できたか。【鑑賞の能力】 |
| | | 篆刻と刻字<br>1篆刻 （2） | ・篆刻の用具・用材や創作の手順を理解し、篆刻の仕方について学習する。 | ・篆刻の成立と伝統について学び、篆刻の仕方が理解できたか。【関心】 |

| 期 | 月 | 学習内容（予定時数） | 学習目標（短期目標） | 学習のポイント・観点別評価 |
|---|---|---|---|---|
| 2学期 | 11<br>12 | 仮名の書<br>１仮名の成立、用具・用材（２）<br>２平仮名の単体（４）<br>３連綿（２）<br>４全体の構成（２）<br>「蓬莱切」 | ・創作参考作品を鑑賞し、篆刻の美を味わう。<br>・仮名の成立過程や種類を理解する。<br>・仮名の用具・用材と、その特徴について理解する。<br>・仮名の書の美を理解し、その基礎的用筆・運筆を身に付ける。<br>・古筆を通して日本の伝統的な書の美を味わう。<br>・古典の臨書を通して仮名の表現技法を身に付ける。<br>・基本的な造形原理を身に付け、創造的な表現につなげる。 | ・篆刻の美しさと表現効果を味わい、篆刻への関心を高めることができたか。【鑑賞の能力】<br>・仮名の書の成立に意欲的に関心を持つことができたか。【意欲・関心】<br>・用具・用材と表現との関係に意欲的に関心を持つことができたか。【意欲・関心】<br>・表現技法の基礎・基本を意欲的に身に付けることができたか。【意欲・態度】<br>・仮名の書の伝統と文化に関心を持ち、そのよさや美しさを感じ取れたか。【関心】<br>・古典を臨書する意義について理解できたか。【態度】<br>・仮名の書美とその技法が生き、普遍性のある表現を工夫しているか。【創意と工夫】 |
| 3学期 | 1<br>2<br>3 | 漢字仮名交じりの書<br>・創作の手順（２）<br>１古典を生かした制作（14） | ・表現の構成から完成に至る過程を理解・工夫し、主体性の持てる創作態度を育てる。<br>・表現技法を高めるとともに名筆の芸術性を追求し、目的や用途に即した表現ができる技能を身に付ける。<br>・地域の文化財や美術館などに関心を持ち、活用する態度を育む。 | ・制作に必要な諸用具の準備、制作過程・目標を明らかにした取組ができたか。【構想と工夫】<br>・芸術的な表現をするために、形式や表し方を理解し、目的や用途に即して表現する技能を身に付けているか。【創造的な技能】<br>・書道の日常性を図ることができているか。【関心・態度】 |
| 評価の方法 | | １　毎時間の課題（作品）の実技評価・鑑賞力評価に加え、【書への関心・意欲・態度】【書表現の構想と工夫】【創造的な書表現の技法】【鑑賞の能力】の観点を考慮し、総合的に評価する。<br>２　各学期の成績は、毎時間の課題（作品）の評価に加え、それぞれの観点等を考慮し、100 点満点で算出する。学年末の成績は、１・２・３学期の成績を基に、授業に取り組む姿勢を考慮し、総合的に算出する。 | | |

○　書道Ⅰの学習法

１　基本的な心構え

優れた書は、その時代に生きる書き手のきらめきがあり、書き手の人格を写し出している鏡であるといえます。謙虚な態度で多くの書を鑑賞し、表現に必要な基礎的な能力を養い、書を通して新しい自己を求める、この方向性を心に堅持して心静かに真剣に取り組めば、より高い書への道がおのずと開けてきます。書道Ⅰでは、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力と態度を育て、書を愛好する心情を育むことを目標にします。

２　学習の方法

(1)　書道の学習では、「よく見る」ことが大切です。自らの感性を発揮し、学習の対象にする作品や古典に素直な気持ちで向き合います。

(2)　技法の習得は主に古典の臨書によりますが、常に「書く」営みの中に自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習します。

(3)　創作については、さまざまな学習活動の成果と照らし合わせながら表現すべきものを探求します。

(4)　授業開始のチャイムが鳴るまでに文房四宝（筆・墨・紙・硯）、教科書、筆記用具などを用意し、授業が速やかに始められるようにします。

(5)　授業は墨磨りから始めます。制服を汚さないように留意します。

(6)　初回の授業では、授業で使用する道具類を説明します。初回は、持ち合わせの道具類のみを持参します。一括購入するものもありますので、事前に購入しないようにします。

(7)　硯・毛氈（下敷き）・文鎮の用具は書道教室に備え付けのものを共用します。

(8)　道具類の中には、書道教室で共用するものもあります。一人ひとりがマナーを守って、快く使用できるように心配りをします。